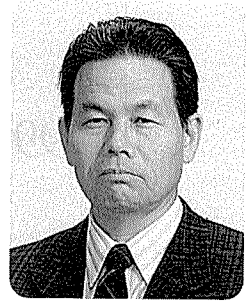


21世紀への希望

田邊 忠 顯*



新年明けましておめでとうございます。

平成11年元日を迎えてまして会員各位におかれてはすがすがしい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

新年にもかかわらず経済状況をはじめ、いたるところが閉塞感に覆われて元気が出ない向きもおありでしょうが、それは日本人に対する天の叱咤激励、国としての精神的な理想を取り戻せという叱咤激励であると理解したく思います。

精神性のある目標とか心の本質への探求とか高邁な理想とかそういうものを国の目標に掲げることは戦後は何か罪悪のように思い、わが国の目標は常に物質的なものばかりでした。

元日は、際だって水の清さ、山の端正さ、空気のそして光の静清さが身にしみませんが、この雰囲気はどこ外国にも存在しません。国が困難に直面しているときに、先人が嘗々として築いてきたわが国の精神的な風光を自信をもって思い出せ、そしてそこから再び立ち上がれと言われていた感じがいたします。そこで、この辺りのことを我々の分野も考えながら新たな表現で触れてみたいと思います。

概念は現実化するという言葉がありますが、まったく概念に過ぎないと思っていたことが、現実化されると大きな驚きが生まれます。たとえば、はっと思わせられたのは、ISO14000の「環境シリーズ基準」あるいはISO9000の「品質システムシリーズ基準」を初めて聞いたときでした。世界中にこのシステムを持ち込もうなどとよく考えついた、さすがは世界制覇を成し遂げた連中だなのというのが実感でしたが、我々日本人はこのようにことにまったく慣れていないように思います。現実が抽象化され概念化されるのであって、概念が先にあって現実が後にあるのではないように、私自身思っていました。しかし欧

米の人たちはむしろこの現実化すべき概念を一生懸命に探っているような気がいたします。

ここで先の問題と、結びつけて考えてみたいと思います。わが国は過去少なくとも50数年間自分で自立していなかったわけで、他国が作る概念に突き動かされていただけに過ぎないように思います。それが今日の事態を招いていると言えなくもないように思います。

しかし、今後はそうであってはならない。他国の概念に振り回されない独自の哲学をもつ。そして、積極的にこちらから概念を輸出する方向に向かうべきでしょう。

製品の輸出ではなく、概念の輸出が重要であるとすれば、我々は何のような新しい概念を作ることができるのか。それこそ今までとまったく異なったベースで一切を考えなくてはならなくなるように思います。

いわゆる橋の概念をぶち破って、新しい橋のしかもコンクリート橋の概念を提出してみよと言われて、すぐさま応じられるエンジニアは少ないのではないのでしょうか。しかし、このようなことを一生懸命考える価値は十分あるように思います。けだし、本協会の懸賞論文として募集してみてもいいでしょう。そしてそれは新しい橋梁設計の展開になるかもしれません。すぐ周囲を振り返ってみると、建築の分野はむしろ概念の生産という世界に近かったのかもしれませんが。そして仮に良い物ができなくても、その行為自体から建築家としてのステイタスが生まれてきたのではないのでしょうか。

概念と現実とは別物ではないという思想は、色即是空という仏教の根本義と一致します。新たに気付き直して、日本人の特性を發揮しはじめさえすれば21世紀のわが国は大きく羽ばたき、世界に新たな貢献ができるようになると確信いたします。

* Tadaaki TANABE: 本協会理事・会長代行副会長、名古屋大学大学院 教授